

[平成29(2017)年3月20日]

日本経済新聞

## 肝臓にがん転移 進めるタンパク

鳥取大チーム特定

肝臓に転移しやすいがん細胞かどうか分かる目印となるタンパク質を特定したと、鳥取大の岡田太教授(実験病理学)のチームが19日までに明らかにした。成果は英科

学誌電子版に発表した。

このタンパク質は「Amigo2」で、がん細胞で増加すると肝転移しやすくなるほか、予後不良となることを確かめた。岡田教授は「今後、Amigo2の増加を抑える薬を開発できれば、肝転移の予防や治療につながる」と期待する。

チームは、がん患者の約90%が、がんの転移の結果死亡していると説明しており、中でも肝臓は最も転移しやすい臓器という。

チームはマウスを使った実験で、肝転移しやすいがん細胞を作製。すると、がん細胞でAmigo2が増加することが分かった。さらにその増減によって、肝転移するがん細胞の数も増減することを突き止めた。